

「勇気ゾーン」へ一歩進める！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

あっという間に春が訪れ、卒業式、入学式と季節は巡り、桜もあれよあれよという間に散ってしまい春を感じる間もなく、新年度がスタートしています。来るものと去るものと世の常としても、何かを断ち切って次の何かに向かう厳しさのようなものを感じています。

「受験勉強」は相変わらず再びスタートラインに後戻りという印象です。「合格体験記」を編集していて一年間の生徒たちの大きな変化を見てみると、子供たちを勉強に向かわせる大きな責務を感じないではいられません。ぼんやりと自分の気持ちや我がままだけで、過ごしてしまいがちな学齢期です。入れそうな学校に入り、なれそうな職業になんとかついて、平凡に生きていく…。それがどんなに困難なことかを、大人は教えてあげなければならないと思うのです。自分たちの未来が、そのままなるようにならないという事をもっともよく教えてくれたのが、東日本大震災でした。その後も災害は相次いで起こり、大きな不幸があちこちでありました。また病気や怪我なども不意に人生にのしかかってくるものです。

何か起こった時に立ち向かえる力とは何か？より豊かに人生を充実させることができるための力とは何か？考えれば考えるほど、「学ぶ！」ことの大切さを思わずにはいられません。受験を突破する力が学力だけだと思っている人も多いようですが、今やコミュニケーション能力がない人の受験はかなり厳しいものになってきています。公立一貫校の入試ではどうしてもリーダーシップが問われますし、高校受験の内申点にはコミュニケーション能力が必ず影響します。大学受験も50パーセント以上が「推薦」や「AO」などの「人間力」も試される内容です。何よりも苦しく長い受験勉強を支えていくのも人と人のつながりであるということ…。豊かな時代の延長の中で、プレッシャーを感じることを避ける傾向がとて強くなってきたように思います。自己中心的に勉強ばかりしている→受験で成功→社会的成功という図式はもうどこにもないように思います。

学歴が高くても、頭脳明晰でも、人と協働して何事かを成し遂げる力がなければ、社会に出ても役に立たない時代に来ているのです。自分のやりたくないことはしない（安心ゾーンにとどまる）という状況はかなり危険な事態だと思います。

中学生は学校の教科書内容をフィリピン人のネイティブが指導してくれる「オンライン英語講義」を月一回必修にしました。ほとんどの生徒がすんなり参加できているのですがかたくなに拒否をする生徒がたまにいます。初めてすることにプレッシャーを感じてしまうのですが、本人にしてみれば、やらないでじっと「安心ゾーン」にとどまりたいという事なのです。実はやってみるとそこに新しい価値や喜びが生まれるはずなのに…。勇気ゾーンに出ていくことは何かが変わること、安心ゾーンにとどまることは、無為に時間をやり過ごすこと。4月7日の合同特訓でも同じようなことが見られました。参加した人は何かが変わっているはずですが、勇気ゾーンへの一歩が、今は大切な時期だと思います。